

たいへんお待たせいたしました。ただいまより三年八組のクラス紹介を始めることにいたします。・・本日はお忙しいところをわざわざ読者の皆様には、数多くある本の中で白聖を選び、さらにその中で三年八組のクラス紹介を読むもうとさせて頂くことに、わたくしとしては、大変うれしく、光栄に思っているでございます。

実は、我がクラスの誕生は今から三年ほど前、まだ日本が活気に満ちていた昭和四十四年四月のことでございます。中学を卒業してから、どこへ行くことも出来ず、勉強に飢えていた我々を千田昭夫先生が見かねて拾って下さったのでございます。それから早いものでもう三年になるうとしておりますが、大学受験を目前に控えた今でもその頃と同じような気持ちで毎月を楽しく過ごしているのでございます。先生はそれを、「大変余裕があつてよろしい」などと言いますが、いささかがつかりしているようなのでございます。

話は変わりますが、我がクラスの構成員の一端を紹介いたします。まず最初は一見して女性らしく、よく見たら女性だったという、

我がクラス唯四の女性、阿部さん。菊池さん田村さん。吉田さん。彼女たちはある面では男子として見られていることに時には誇りらしきものを感じられるのでございます。しかし、今にして思えば男子の暴走を抑制し、休み時間の語らいを慎重にさせ、クラス内の正常化に大きく貢献したと思われるのでございます。次にその他大勢の男子でございます。授業中にはいつも姉のことが頭を離れない頼通。スポーツ万能の藤尾。ランドセル背負ってオートバイ通学する山内。どんなに空が晴れても長靴で通う小川。昼休みにはテレビ小説を見るために家へ帰る工藤。剣道では無敵の川原田。映画館へせつせと小人料金で通う信之に寺沢（皆様は真似をしてはいけません・成人映画は小人料金で見られないのでございませから）将来の夢は宇宙飛行さという沢口。いつも連帯行動をとって遅刻まで一緒の塚谷中村。三年になったら人が変わった山本。人に何と言われても自分の顔に大いに満足している布施。「人は顔じゃないんだ」と言い張るのは尾崎。手品師よりも手品が上手な手品師片岡とその助手鈴木。深夜放送についてのお問い合わせは秀人。フオークソングのお問い合わせは元泰。物理部と陸上部を駆け足で

行ったり来たりするのは小松。近頃はこんなに食いしん坊なのは珍しいほど食いしん坊の有。生涯の言葉数が限定されてでもいるように無口な杉本。天下を取ることが目標の古館プロレスとプロ野球が英語に次いで好きな亮慈。「恋は真剣なほど壊れやすい」と忠告する一之。代返するにはその人になりきることを身をもって示した孝宗。自称真面目な文学青年村山。瞳の奥に潜む・・の持ち主文彦。高校生活に疑問を感じる梁川。冬季札幌五輪を目指す村井。勉強では憧れの菅原。一にも二にも軟庭の芳人。愉快な男下田。最近顔つきが厳しくなった小原。以上でございます。

このようなわたくしたちでしたけれど、入学後三年目にして、仮装行列二位、スポーツ祭総合五位、全種目得点という輝やかしい成績を残したのでございます。しかしながら我がクラスにも大きな失敗があったのでございます。それは文章を書くことの苦手なこのわたくし（御同感の方も多いことと思えます）にクラス紹介の文を書かせ、クラスの品位を落としたことでございます。

最後に、読者の皆様に対して、この悪文に目を通していただきましたことに、あつく御礼申し上げます。